

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|-------|--------------------|
| 事業所番号 | 2192400014 |
| 法人名 | メディカル・ケア・サービス東海(株) |
| 事業所名 | 愛の家 グループホーム たるい |
| 訪問調査日 | 平成21年1月4日 |
| 評価確定日 | 平成21年1月27日 |
| 評価機関名 | NPO法人 ぎふ住民福祉研究会 |

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月13日

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|---------------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 2192400014 | | |
| 法人名 | メディカル・ケア・サービス東海(株) | | |
| 事業所名 | 愛の家 グループホーム たるい | | |
| 所在地 (電話番号) | 岐阜県不破郡垂井町綾戸895-8 (電話) 0584-24-1071 | | |
| 評価機関名 | NPO法人 ぎふ住民福祉研究会 | | |
| 所在地 | 岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター | | |
| 訪問調査日 | 平成21年1月4日 | 評価確定日 | 平成21年1月27日 |

【情報提供票より】(21年1月7日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|------------------------|--------|
| 開設年月日 | 平成 19 年 2 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 14 人 | 常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 | 12.2 人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|-------|-------|
| 建物構造 | 鉄骨 造り | | |
| | 2 階建ての | 1 階 ~ | 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|--|----------------|--|---|
| 家賃(平均月額) | 60,000 円 | その他の経費(月額) | 21,000 円 | |
| 敷金 | 有(円) <input checked="" type="radio"/> 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(100,000 円) | 有りの場合 償却の有無 | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 950 円 | | | |

(4) 利用者の概要(1月4日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 4 名 | 女性 | 14 名 |
| 要介護1 | 3 名 | 要介護2 | 3 名 | | |
| 要介護3 | 8 名 | 要介護4 | 2 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 1 名 | | |
| 年齢 | 平均 81 歳 | 最低 | 65 歳 | 最高 | 95 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------|
| 協力医療機関名 | 古川医院 |
|---------|------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大垣市と垂井町の境界に位置し、国道21号線より北へ1キロ余り入った所にあるホームで、周囲は田畑、ホームの西側には雄大な伊吹山が眺められる。東側には一戸建ての団地が広がり、環境の良いのどかな風景が見られる。ホーム内は明るく清潔な居心地良い空間である。開設されて間もなく3年目になるが、利用者の気持ちを尊重し、ゆったりとした温かい雰囲気のあるケアが行われている。地域では地元の自治会長、老人会長等との協働がホームの活動につながっている。又ホームは地域の社会資源を活かした、地域との密着した交流にも積極的で、図書館通いや公民館を活用した取組み及び小規模多機能施設との交流等に取り組んでいる。全国に系列のグループホームが100ヵ所以上あり、統括ホーム長が中心となり職員研修等を組織的、計画的に行っている。又、職員の資格取得には支援体制もあり職員教育に力を入れてケアサービスの向上を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で指摘のあった6項目について、全て改善されている。家族とのつながりの強化については、月1回の外出、遠出の機会を作り実行している。運営理念は職員全員が言えるようになってきている。鍵を掛けないこと、趣味を活かした畑や園芸も積極的に行っている。職員の教育については、勉強会を多く持つ取組みをしている。又終末期の対応については、ホーム内で勉強会を進めている。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長や管理者は、自己評価することが職員の意識の向上に繋がることと認識しており、職員に意義や目的を周知すると共に、カンファレンス等で話し合いながら、全員で作成している。日々のサービス支援で、気付いた点や反省点を職員で協議し、改善に向けての取組みをしている。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進委員会は、2ヶ月に1回定期的に開催している。地元の民生委員や地域の自治会長、老人クラブ会長、役場の担当者等に加え、家族が多数参加しており、活発な意見が交わされている。会議の様子が意見や提言等は会議録に記録しており、カンファレンス等で職員に報告している。そして、できるものから直ぐに行うなど、ホーム運営に反映させている。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会が多く、利用者本人の日々の生活の状態や健康状況、金銭管理等を詳しく報告している。また、面会の少ない家族には、月1回の利用料請求に合わせて、写真や手紙を添えて本人の暮らしぶりを伝えている。職員は様々な機会を捉え、出来るだけ多くの意見を聞きだすように心がけており、出てきた意見等を運営に反映させている。苦情等は、意見箱を設置し、ホームの相談体制を機会あるごと説明している。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の民生委員や自治会長、老人クラブ会長を通じて、地域行事に参加するなど地域住民との交流を図っている。また、近くにある図書館や、公民館を利用しホーム側から積極的に地域住民と繋がりを行っているほか、小規模多機能施設と行き来をしており、利用者は日常的なふれあいを楽しんでいる。</p> |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 会社の理念で地域とのふれあいが唱えられており、職員は利用者が今までと同じ環境の中で暮らしが続けられるような支援を実施している。特にホーム長は、ゆったりとした楽しい生活が出来るホームを目指しており、職員と話し合いながら、各フロアごとで独自の目標を作られている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | ミーティングやカンファレンスに必ず、理念や自分たちで作った目標を唱和しており、理念に沿ったサービスを展開している。また、独自の目標に向けて、職員も利用者と共に楽しみながら支援をしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 施設が垂井町と大垣市の境に位置しており、地域とのつきあいに難しいところであるが、地元の民生委員や自治会長、老人クラブ会長を通じて、地域の行事に積極的に参加し、地域との交流を図っている。また、近くの図書館や公民館を活用したり、同じく隣接する小規模多機能施設と日常的に行き来し、地域住民とのふれあいを楽しんでいる。 | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | ホーム長や管理者は、過去に行われた外部評価結果を、みんなで協議し改善してきており、今回の自己評価についても、はじめから、職員全員での取り組みとしている。職員は自己評価での気づきや反省点をみんなで話し合い、出来るものから改善をして来ている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進委員会は、2ヶ月に1回、定期的開催している。参加者は、地元民生委員、同じく自治会長、老人クラブ、役場の担当者、加えて家族が多く参加しており、活発な意見が交わされている。また、地域の行事等の報告もあり、利用者と共に参加している。出された意見等は会議録に記録しており、カンファレンス等で職員に報告し、ホーム運営に反映させている。 | | |

愛の家グループホーム たるい

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 運営推進会議等で、担当者から行政の動きや制度改正等の説明を受けるなど意見交換をしている。また、公民館の活用やそこで活動しているサークルへのボランティアの呼びかけなどで役場を訪れ、そのときにも担当者に相談や助言を貰っている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 利用者の暮らしがその人らしくあるためには、家族の協力が不可欠であることをホーム長や管理者は認識しており、家族への報告は様々な機会を捉えて報告し、面会の少ない家族には、手紙や生活の写真等で伝えている。また、月1回、家族と本人とで外食をすることを決めてからは、利用者の暮らし振りを定期的に、より詳細に伝えることが出来ている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ホーム長や管理者、職員は、家族に利用者の生活ぶりをしっかりと報告できていることが、家族からの要望や希望等の意見や提言に繋がることを認識している。また、面会が多く、その時々を捉えて、家族と話合い、その中での意見や不満、苦情等を聞きだすことに心がけており、出てきた意見や不満等については、皆で話合い、ホーム運営に反映させている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | ホーム長は、利用者のことを考え、職員の異動は極力、少なく済むように、日ごろから勤務体制等を作成している。また、何時異動があってもダメージを与えないために、1階、2階の職員の交流を日常的に行って利用者馴染みの関係を築いている。止むを得ず異動が生じた場合は、家族や利用者に説明をして理解を得ている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ホーム長や管理者は、常に勉強会をするようにしており、職員のレベルの向上を図っている。また、外部の研修や資格取得等について、希望する休暇を取りやすい環境づくりを行っている。研修者は復命書を書くと共に、カンファレンス等で他の職員に報告をしている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他の系列グループホームとは定期的にトップ会議や管理者会議、職員研修等を通じて交流を図り、お互いの施設のサービスの質の向上に繋げている。また、近くの小規模多機能施設とも交流が出来ており、地域密着型サービスの向上に向けた取組みをしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|---|------|-----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居希望の利用者と家族には、ホーム見学をして貰っている。また、職員がホームの説明に出向くなど、馴染みの関係を重要視している。入居したときは、職員が間に入り出来るだけ他の利用者や職員を馴染めるように取り計らっている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | ホーム長の楽しいホームにすることを職員も心がけており、利用者本位を第一に置き、介護される側、介護する側の関係ではなく自然な形の中で、日々を楽しみながら本人のペースに合わせ、共に支え合う関係が保たれている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ホーム長の「ゆったりとした生活を」の主旨を、職員が理解できており、本人がホームでどのように暮らしたいか、今日、どう過ごしたいか等、本人の思いを常に聞き出すようにしている。また、会話が出来ない人にも職員が絶えず話しかけ、目の動きや体の反応を感じ取るなど思いの把握に努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | ホーム長や管理者は、より良い介護を目指すには、本人や家族からの意見やメッセージを大切にすることをいつも、会議等で話しており、会話を重視している。利用者に職員の担当を決め、きめの細かいところまで、介護計画に反映させている。介護計画作成については、利用者本人、家族そして関係者全員で行っている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 基本的には3ヶ月に1度の見直しではあるが、月1回のカンファレンス等で話し合い、問題があれば修正し、職員のケアに活かされている。 | | |

愛の家グループホーム たるい

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|--|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人、家族の状況に合わせ、特別な外出支援、図書館利用等柔軟に対応し、利用者一人ひとりの満足を高めるよう努力している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族の希望されるかかりつけ医には、家族同伴で受診している。施設の協力医が、かかりつけ医の場合には月2回の往診がある。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 住み慣れたホームで終末を迎えたいと要望がある利用者や、家族がいる事を予測し、終末期に向けた方針の取り組みを職員全体で考えている。 | ○ | 系列のホーム間の交流を通じて、終末期のマニュアル化を進め医療スタッフも充実させ、今一步の前向きな姿勢が望まれる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | ゆったりした落ち着いたあるトーンで利用者への声かけがある。言葉使いも丁寧に親しみのある接し方である。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の基本的な流れはあるが、食事時間、入浴時間、余暇の時間等、自己決定出来る場面を多く作っている。 | | |

愛の家グループホーム たるい

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 調理担当職員が食事作りをするが、調理風景が見られたり、職員と共に食事を楽しんだり、又後片づけ出来る人は、皿ふき等を行っている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 基本的には週2回の入浴方法を取っているが、午前、午後、自由な時間に入浴を楽しんでいる。又、家族と共に入浴をしたり、夏場にはシャワー浴を多くしたりして柔軟に対応している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者の得意な事を、普段の会話から聴き出し、洗濯物の取り入れや掃除等の役割がある。習字や、団子作りや、干柿作り等も楽しみごとの一つとして支援している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 晴れた天気の外出日和には散歩、外出支援やドライブ希望時には、外食や「南濃道の駅」の足湯にと戸外に出かけている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかけず見守る支援で、徘徊行動のある利用者には職員が同行して本人の満足の得られるケアに取り組んでいる。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害対策マニュアルを作り、緊急連絡網も事務所に掲示されている。避難訓練は年2回行っている。備蓄品も整備されホームの一角に置いてある。 | | |

愛の家グループホーム たるい

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 本社からのバランスの取れた食事レシピで調理人が調理し一人ひとりの状態に合わせた食事形態にしている。又、水不足にならぬ様水分補給量の把握にもチェック表があり、情報の共有が職員にある。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 観葉植物や季節感のある物を置いたり、外出時、イベント時の利用者の楽しい写真の掲示があった。1F、2Fの出入り口の鈴もよい音色である。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には本人の意思でテレビ、時計等持ち込まれている。本人が居心地良く過ごせるように配置してある。 | | |